

3番（山口裕子君）〔登壇〕

それでは、ただいまより通告に従い、私の一般質問をさせていただきます。

男女共同参画、女性として、また母親としてこの場に立つことができること、本当に感謝申し上げます。また、新武雄市づくりに精いっぱい貢献していきたいなと思っておりますので、よろしく願いいたします。

それでは、第1番目、旧山内町の庁舎の活用についてお尋ねします。

これは、山内町の問題ではありますが、新市長が掲げてあります「ぬくもり」のある元気な新・武雄市創りについてというところでは、この山内町の庁舎の活用が大きなキーワードになっているように思います。

合併前に、総合福祉センターの建設問題の中で、子供の居場所を強く要望しておりましたが、前町長は「合併すれば庁舎が空きますので、図書館、歴史資料館、団体活動の部屋などを予定しています」とのことでしたが、それらのことが新市においてどのような約束になっているのでしょうか、お尋ねします。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

御答弁申し上げます。

私の具約でも、空き庁舎については市民開放ということで有効利用する方向を既に述べております。

その上で、私が今念頭に置いているのは、新武雄市になった。したがって、もう一つの空き庁舎の北方があります。北方、武雄の場合はちょっとスペースが、もう御案内のとおり、ありませんので、北方と山内の役割分担というか、その割り振りを考えて山内の空き庁舎をどのように検討するか考えていきたいというふうに思っております。

今のところ、行政改革幹事会で早急に具体的な検討を行って、必要な方向性については9月を目途にその原案を出していきたいというふうに思っております。その上で住民代表の声として、議会、各種団体、あるいは地域審議会などの意見を聞いて活用策を決定したい。こういう段取りで今考えております。

議長（杉原豊喜君）

3番山口裕子議員

3番（山口裕子君）〔登壇〕

審議会を立てて9月からということではありますが、旧山内町では私たち活動団体が、やはり、今一番問題になっている子育て支援、子供たちの居場所づくりですね、そういう形で一生懸命活動してまいりました。

図書館というところで、ただ図書を借りる場所だけではなくて、この重要性という、自分

たちのまちを誇りに思うというところで、図書館施設というのがとても重要なものだと思っております。新市になってエポカルという図書館もありますが、旧山内町では子供たちが居場所として、中高生であり小学生もそうですが、図書施設、また自由に情報をとる場所がありません。そういう形をもって旧町長にこういう居場所をというふうに言っておりました。

今、いろんな問題が上がっておりますが、子供たちの居場所というところで活動していく中、やはり高齢者の居場所、グラウンドゴルフ場とかゲートボールというものが整ってきました。そのときに、やはり今、ニート問題とかと重なってきますが、やはり大人たちの言い分は次々に決まっていきますが、子供たちを中心に考えたときに、それはどのような形に映ってくるのでしょうか。何か、子育て中の私たちもそうですが、やはり一生懸命子育てをしている中に要望が聞いてもらえないとか、言っているけど、どこに伝えていったらいいのかなという問題というのは、本当にそのまちに対してあきらめみたいな、無関心とかをつくり出していたように思うんです。

そのときに、やはり新市になって、私たち旧町だけで考えるはいけません、新市になったときにも、この山内町の庁舎の活用によって、とても元気な新武雄市をつくり出していくことができいくんじゃないかなというふうに思っております。

ぜひ子供たちの居場所というところで、山内町はありません。そして、北方は図書館と併設して十分にあります。武雄市にもそういうところが整っております。また文化会館という中もそういう利用ができておりますので、さらにそれを優先順位としたら、ぜひそういう居場所として活用ができるようお願いしたいなというふうに思っておりますが、そういうところの所見をお伺いしたいと思います。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

優先順位について、ここで、これは何番だとか5番だとかいうことを答えるすべは持ち合わせておりませんが、まず、ぜひ必要なのは、例えば、きょうは山内の出身の議員です、山内でどういったのが必要なんだということを、まず議論をしていただきたいというふうに思っております。これは北方も一緒であります。その上で最終的に、そうは言ってもあちこちに似たのができると、これは財政負担になりますので、最終的には市長である私が決めるということになると思いますけれども、まず、どういったものが必要かということ地域の方皆さんで御議論いただくと。その上で私は全体の新市のバランスを見て決していきたいというふうに思っています。

それで、ぜひお願いがありますのは、ずうっと議会の質問を聞いていて、やっぱりあれが欲しい、これが欲しい、もうそのオンパレードで私は何を優先順位で1番からつければいい

のかわからない。

したがって、ぜひ私は、企画部長からもありましたけれども、これを優先順位にするんで、これをちょっと市長さん、後でもいいですよということをセットでおっしゃっていただければ非常にありがたく思っております。

議長（杉原豊喜君）

3番山口裕子議員

3番（山口裕子君）〔登壇〕

本当に私もそう思います。なぜかという、やはり母親というのは一家の家計を自分でやりくりするものでありまして、私たち活動団体もあれが欲しいと、新しいもう何億円もする図書館が欲しいんだとか、そういう形を言っているのではなくて、まずあるものを生かすところから、こういう居場所が欲しいというふうにお問い合わせもしておりました。

本当に行財政よくわかっております。自分のところにこれだけしかなかったら、あるものを生かそうというところで一番言いたいの、この山内町の庁舎が一番活用するのにポイントとなるところじゃないかなというふうに思っています。

その後、もう基本設計まで進んでおりますが、総合福祉センターの問題なども上がっていましたが、その前に、やはりこれだけ有効に使える場所を、一番山内町にとって足りない部分のところに充てていただきたいという気持ちで私はお願いしております。

本当に、新市長も旧の山内町の状態をまず御存じでもないし、済みません、失礼いたしました。実情というか、その流れといいますか、図書館の懇話会とかそういうことがあって、ずっとそれがお流れになって意見を聞いていただけなかったというところではあります。

きちんと話をまとめてと言われるところを言えば、やっぱり女性団体として23の活動団体があります。その中からやはり意見として出ているわけです。まちの図書館というか交流館とか福祉センターとかそういうものであっていいんですが、やはりそこが一番まちの者が出会うところ。それがまず山内町ではなかったということですね。

それから、市長が言われるように、お嫁に来てよかったとか、帰ってきてよかったというときに一番情報をとれる、自由に行けるところ、それがまずないということです。本当に、また自分のまちを誇りに思うというところは、基本的にそういう居場所があるということは、子供が育っていく中に自分のまちを調べるとか、そういうことでも自分のまちで調べられるということはとても誇りになっていくというふうに思います。やはりお嫁に来たお母さんたちも、帰ってきた方たちも、外で情報をとるしかなかったというふうに思います。

だから、そういうことをポイントとしていただければ、この新武雄市がぬくもりがあって、元気なまちづくりになるには、そういうところに重点を置いていただいたらいいんじゃないかなというふうに思っております。

まず、まちの情報など、そこに行けば自由にとれるということですね。今、子供たちの育つ状況が悪化しているとか、いろんな問題が出ていますが、やはり子育て中の方はなかなか人とつながるとか、そういうことが苦手になってきて自分で情報をとれるということを選んでいきます。そのときに出会いの場がそこにでき上がっていくというふうな形で、旧山内町の庁舎がそういう活用になっていくことを一番望んでいるわけであります。

あと、夢とか希望を持つというところで一番山内町に図書館施設がなかったというのは、やはり本とかは知らない世界を知り、夢と希望を持てるという、そういう居場所になります。だから、エポカルがあります、やはり山内町にも旧庁舎に、分館的ではいいですが、そういう図書室施設をつくっていただき、そこが高校生とか中学生、また小学生もそうですが、若者たちがそこで集えたり、勉強したり、学び合ったりとか、人と人が出会うというところに一番活用できるんじゃないかというふうに思っています。

若者が行くところがなくて、山内では三間坂駅の前とかコンビニの前で子供がうろうろしていると言いますが、やはりそういう環境しか大人たちがつくっていないんじゃないかと思いますが、そういうところを含めてもう一度、市長の観点、所見をお聞かせください。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

御答弁申し上げます。

私は、このように考えております。今、なかなか貴重な御意見があったと思いますけれども、果たして議員がおっしゃるようなものを、例えば山内の支所につくったといったときに、子供たちが本当に集まってくれるかどうか。それは、私は聞きながら半分半分かなというふうに思いました。私は、集まる場、あるいはそこに集う場ということで解すれば、子供たちというのは、恐らく大人たちが想定しないようなところに集まるのが、多分、私の経験からしてもそうだったと思います。お宮で大人の見えんやったりすることかですね、あるいは駄菓子屋の奥だったり、およそ大人が想定するようなところに私は行ったためしがない。

したがって、私はむしろ山内、北方を空き庁舎として活用する場合は、そういった子供たちの子育ての大変な親御さん世代、あるいは障害者をお持ちの方々の、答弁もしましたけれども、お父さん、お母さんたちの集まる場、私はむしろ政策的にはそちらの方を優先すべきではないかなというふうに私自身としては考えております。

議長（杉原豊喜君）

3番山口裕子議員

3番（山口裕子君）〔登壇〕

今、市長に答弁していただきましたが、私もそういう親の交流とか障害者とか、やはり行くところがないわけですね。障害者自身、自分で動ける子も出ていくところがないというところ

ころで、そういう居場所ということを私も伝えたかったわけであります。

それからもう一つ、そういうことで子供たちは自分たちで隠れ家のように遊ぶのは本当に好きであります。しかし、大人たちの居場所とか文化的な施設が劣っているというところで、山内町にとってはスポーツ施設がどんどんできていくという中で、やはり夏休みとか冬休み、長期休みには友達同士そこで勉強ができるとか、庁舎内があいていたら、そこを開放していただいたら、それなりに入りやすい雰囲気をつくるということは、今閑散として、やっぱり合併するところという形になるのねという町民の声があります。実際、今支所はそういうちょっと寒々とした感じがありますので、そういう人のにぎわいとか、町民が出入りするところから考えて、そういう居場所にしていただきたいなというふうに思っております。

あともう一つ、団体活動の部屋ということで、これも旧町長をお願いしておりました。それは、佐賀にあるiスクエアビルなどもそうですが、市民活動センターとして旧庁舎を活用することができるならば、本当に婦人会とか民生委員さん、食改とか、老人会、女性ネットワークとかPTA、ボランティアグループ、障害者の会、育児サークル、国際交流の会といういろんな活動している会がありますが、そういう団体が一つになって活動できるセンター的な働きを旧庁舎に入れることができれば、とてもネットワーク的には活力が出て、行政とともに活動できていく場になっていくように思います。

iスクエアビルというのは、そこにも行政が入っていて4階ではありますが、市民活動推進課とかが4階に入っていて連携ができるようになっております。もちろん旧町のときから、そういう活動をしている団体のロッカーとか、また世帯道具が多いので、活動できるデスクとかが、そういうのがセンター的な役割で旧庁舎に生かされたらいいなという町民の声がありました。それを新市になったときに皆さん期待をされているのですが、そういう市民活動センターとしてのお考えはいかがなものでしょうか、お尋ねします。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

御答弁申し上げます。

私は、まさにこのことが優先順位だというふうに思っております。私が最も避けたいのは、いろんな、例えば集う場であったりとか、そういった団体が集まる場が中途半端にそれぞれ十分な役割機能を果たさないままに乱立並立するというのは、私は市長としてこれを避けたい。したがって、きちりしたものを私はつくる。そういった意味で、私はきのうの答弁からでも再三言っておりますけれども、その優先順位をどこにするか。

したがって、大ざっぱな言い方をすると、庁舎の問題はそういった団体の皆様に間接的な支援をする場がいいのか、あるいは、さっき議員からお話が出たように、実際にお困りの人たちに直接支援するのがいいのか。その優先順位をどうするかということを、私は地域でよ

く議論をしていただきたいというふうに思っております。

いずれにいたしましても、中途半端になることは避けたいというふうに思っております。

議長（杉原豊喜君）

3番山口裕子議員

3番（山口裕子君）〔登壇〕

旧町のときに前町長に、やっぱりそういう決意を持って団体活動の場、そういうことをお願いしていたわけでありまして。本当にあいまいなとか、会がはっきりしないとかじゃなくて、本当に町民にとってたくさんの貢献をしているところでもあります。それが一つになって子育て支援とか、町民の活動とか、そういう支える意味で連携がとれるならば、情報発信もそうですが、まちづくりとしてはかなり力を持つセンターになるんじゃないかというふうに思っております。

そのこのところをやはり旧町民としては、この庁舎活用がそういうふうに生かされると、活気づいたというか、周辺部が過疎にならないような対策の一つになっていくように思っております。

あと、町民の方から寄せられるのには、やっぱり合併によって使わなくなったロッカーとか机とかパソコンなどがあるんじゃないかということを探ねられます。そういうものを生かして、ぜひ市民活動センターの活動指導といえますか、そういうのを延ばさないで、すぐにも取りかかってほしいという意見をいただいております。

あと、パソコンというのは、だれでもが家にインターネットをつなげるというものではなくて、市長の具約などを見たいとかいう市民の方もたくさんおられます。だから、その市民活動センターに行けば、そういうふうに自由に情報がとれるとかですね。あと、活動の印刷とかコピー物が少し格安でできるとか、利用できるという形で市民の活動が活発になっていくような場になればと思っております。

そういうことを含めて総合支所の活用というのに、優先してとは言いませんが、そういう旧町としてはそういう活動をぜひという形に、すぐにもできる形のような返事で旧町長からいただいておりますものですから、再度確認という形で市長にお願いしておったわけです。

では、次の2番目の保健センターの活用についてお尋ねします。

保健センターが、今、聞けば人員が3人から1人になって、活用が大体半分ぐらいの活用になっていて、人をそこに配置することができなくて閉館の状態であると言われておりますが、今後、保健センターをどのような活用になされる計画があるのかお尋ねします。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

まず、応急的措置として職員の勤務時間内であれば、すぐ利用できるようにしたいと思います。

他方で、保健センターは構造上、健診等の保健事業に適したつくりとなっておりますため、全館オープンにはちょっとできない状況にはありますけれども、可能な範囲で可能な限り対応していきたいというふうに思っております。

議長（杉原豊喜君）

3 番山口裕子議員

3 番（山口裕子君）〔登壇〕

今まで行政主導ではありましたが、育児サークルという形で活発に活動がなされてきました。その場としては、本当に子育て支援という意味では、ここでかなりフォローできるお母さんたちとか、子供を持つ親が、かなりここでいい活動ができておりました。それが、やはり週2回あったものが1回だけになっております。また、お母さんたちのうわさを通せば、もう来年19年度からは、そういう育児サークルもできなくなるというような形も言っておられます。それははっきりした計画かどうかわかりませんが、ぜひ、今から子供を育てるお母さんもそうですが、子供たちも一番元気にやっていってほしいところの活動の場として、これはすぐにも対策してほしいなと思いますし、今、あのように閉まっているという保健センターをすぐに活用できるという方法とすれば、だれか、ボランティアとはいきませんが、管理人さんとか、そういう形で人を置いたら開放ができるんじゃないかという声もあります。そのことに対してはいかがでしょうか。

議長（杉原豊喜君）

中原福祉保健部長

中原福祉保健部長〔登壇〕

お答えいたします。

保健センターの利用については、育児サークル等、健診業務、それから予防接種業務等利用をしているところでございます。

ただいまの育児サークル等の行事については、現在使われておりますので、今後も当然利用を推進していきたいというふうに思っているところでございます。その他、いわゆる健康増進にかかわる子供さんから高齢者の方までの利用についても、当然利用を図るように推進をしていく必要があるというふうに思っています。

それから、管理人等を置いて利用を図りなさいということでございますが、この件については予算の問題もございまして、今後検討させていただきたいというふうに思います。

議長（杉原豊喜君）

3 番山口裕子議員

3 番（山口裕子君）〔登壇〕

本当に子育て支援というところでいろいろなサポートが必要なときに、やはりこういうところが力を弱めていくというか、ぜひあってほしいという要望のところがなくなっていったはいけないと思っております。

それと、少子・高齢化社会対策としても、ここは健康増進の場でもあり、そういうリハビリの部屋も備えておりますし、やっぱり子育て支援というところからも、小さい子供たちを受け入れるには適した量の部屋があります。

そういうところを、ほかの改善センターとか、いろんな部屋を借りるように、ここの貸し出しというか、利用が望まれるのではないかというふうに思っております。やはりそこが子育て中のお母さんたちにとって、とてもいいコミュニケーションの場になっておりますということをお伝えしたいと思っております。

それでは、最後になりますが、昨日も質問の方に出ておりましたが、市民の方の積極的な社会参加について。

私は、その社会参加という中に、やはりきのう、23番議員も言っておられましたが、社会参加するには、やはり交通手段が要るわけです。特に、高齢化社会になりますと、本当、切実な願いのようであります。ある方は「やっぱり新幹線よりも、やはり市役所とか支所とかに行く交通手段がなかとに、そがんとばつくるごとしよらすとね」とか、そういう意見も聞きます。やはり住民にとっては、病院に行ったり、市役所に行ったり、支所に行ったりという、やっぱり社会参加とか、いろんな呼びかけがあったときに行きたいわけですね。そのときにやはり、きのうは財政的には厳しいということではありましたが、また、代替的にワゴン車とか、1市2町で持つてあるワゴン車の活用とか、また、いろいろな多方面からの考えによって、コミュニティーバスというか市民の足になるような運営の仕方を早急に考えていかなければならないのではないかというふうに思っておりますが、そのことに対して市長の見解をお聞かせください。

議長（杉原豊喜君）

前田企画部長

前田企画部長〔登壇〕

バスの関係でございますが、せっかくの機会でございますので、今、武雄市が市内の中でバスの運行をしている状況について、若干申し上げたいと思います。

最近の車社会の中で利用者の減少とか、多くのバス路線の廃止縮小がされる中で、市としては、今、バスの運行についていろいろやっております。

まず一つは、バスの事業者が運行する路線への助成をする路線でございますが、これは地域間を結ぶ路線として、今、あるのが武雄三間坂線、それから祐徳線、これは鹿島に行く路線です、それから武雄多久線。この3路線がございます。平成7年度の総経費が14,618千円となっております、そのうちに市の持ち出しが5,283千円ということになっております。

それから次に、バス事業者が運行を維持できなくなりまして、廃止をされまして自治体が赤字を補てんする路線があります。これは三間坂線。これは、武雄三間坂の間でございます。それから伊万里武雄線、それから北方の方の小川入口線、それから市の方の全くの単独でやっていますのが市内循環バスといいまして、朝日橋の循環バス、それから、若木武内方面の循環バス、それから昨日質問があつておりました山内町の乗り合いタクシーの船ノ原線と、それから臼ノ川内線の路線がございます。これが7路線でございます。これの平成17年度の総経費が総額で24,784千円ということで、そのうちに市の負担が21,456千円というふうになっております。

以上、バス対策の全体の総経費がトータルで約40,000千円かかっております。そのうちに市の負担が約27,000千円の助成をやっているという状況でございます。

特に、市内の循環線、それから昨日質問がありました乗り合いタクシーの利用状況を若干申し上げますと、朝日橋線で1日の利用者が22.2人、1便当たり3.7人になっております。それから、1人あたりに1回、市の方から603円の助成をしているということになります。それから、もう一つの武内若木線ですが、これが1日の利用者が55.4人、1便当たりで11.1人となりまして、1人当たり1回、市の方から303円の負担をしているということでございます。

それから、山内町の乗り合いタクシーの方が、これは昨日申し上げましたが、臼ノ川内線については、1日の平均の利用が2.4人、1便当たり0.4人ということで、1人当たり1回1,816円の市負担と。それから、もう一方の船ノ原線ですが、ここでは1日の利用者数が2.0人、1便当たり0.3人ということで、1人当たり1回2,178円という市の負担になっております。

そういうことで、先ほどのバス関係の延長とか見直しということでございますが、先ほど申し上げましたように、現在の運行では非効率な面もかなりございます。そういうことで、関係地区の意見を聞きながら、実態を把握して、運行の時間、それから経費等を考慮しながら新市全体で路線、運行形態を含めまして有効かつ効率的な観点で抜本的な見直しをやってみたいということで考えています。

どっちにしても、関係住民の方の利用を特にお願いしたいということをお願いしておきます。よろしく申し上げます。

議長（杉原豊喜君）

3番山口裕子議員

3番（山口裕子君）〔登壇〕

従来型では、本当に財政的にも厳しいということはおわかりました。

やはりこれは、新しい課題として新しい形で住民が動けるような足の手段というのが必要だなというふうに思っております。昨日、市長もやはり佐世保の方ではノルマ制というか、

そういう形でも言っておられました。

バスをまず利用しないと、これも生かされないものですが、市長も徒歩で通勤してありますが、環境先進国では自転車とか徒歩の人に逆に通勤手当を充てるとか、そういう形の政策なんかもあります。マイカーをやめてこういうバスを利用して通勤するということとか環境を打ち出したことをあわせて、このバスの利用というか、そういう形も生かせるんじゃないかというふうに思います。バスを利用した人には何かのポイントがたまるとか、そういう形、やっぱりぬくもりのあるというと、1人が車1台で動くよりは、乗り合いバスというか、そういうところで人と人が触れ合うというか、そういうぬくもりのあるところから、こういう乗り合いバスも一つの手ではないかというふうに思います。

また、ワゴン車とかそういう形で動くのであれば、その広告というか車自体に宣伝を張ったようなやり方とか、いろんな新しいやり方でまちがにぎわっているというか、そういう車が走るということ。あと、環境問題にも即しているというか、そういう使い方もないかなというふうに思っておりますが、そういうことを含めて考えていただきたいと思っておりますが、再度御答弁ください。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

御質問を聞きながら深くうなずきました。いい考えだなというふうに思いました。特に、環境とポイント制、これは私も初めて聞きました。いろいろ全国の例を、実はこっそり調べておりましたけれども、これはなかなかいい案だなというふうに思いました。そのポイント制が、例えば、地域通貨のように福祉に担われるとか、そういったことはひとつこれ、ほんなこて考えられるなというふうに思いましたので、私の方で一たんちょっと引き取らせていただいて、ちょっと具体的にどのようなになるかというのは考えてみたいというふうに思っております。

ただ、先ほど企画部長が答弁したように、やっぱりバスば走らせようぎ使ってもらって何ぼの世界であります。どうか重ねて私からもそういうふうに使っていただくように、私自身もPRはしていきたいと思っておりますけれども、議員各位、あるいはケーブルテレビをごらんの市民の皆さんにとっても自分たちのバスなんだということを御理解の上、さらに使っていただきたいというふうに思っております。

議長（杉原豊喜君）

3番山口裕子議員

3番（山口裕子君）〔登壇〕

ありがとうございます。やはり今まであるものの観点から少し外して、斬新なアイデアとかそういういろいろな意見を入れることによって、また新しい打ち出しができるんじゃない

かというふうに私も考えております。

主婦は家計を預かる者として、やはりあるものは限られております。それと同時に社会参加、そして、この新市に期待をするものであります。そのときに住民、市民が声を聞いていただいたというのは、具約の中に、やはり子供たちから高齢者の意見が全部取り込まれていたというところに、すごく希望を持っていると思います。まずは意見を聞いてほしいというのが市民の心だと思います。できるかできないかよりも意見を聞いてもらったということに、すごく自分の市に期待をするものだと思います。

そういうことを含めて、市民が参加しやすいまちづくりというか、そこからぬくもりがあって元気なまちづくりになっていくんではないかと思っておりますので、そういうことを含めて市長によろしくお願いいたします。

これをもちまして私の一般質問を終わらせていただきます。ありがとうございました。